

今週の相場はどうなる？ 今週の相場はどうなる？

作成者：山根亜希子

○5月27日～

先週の為替相場は大きな波乱もなく、じわじわと円安が進行しました。

介入後は、少しドル／円も上値が重くなってきたように見えます。

ただし、トレンドは根強い円安トレンドなので何かでショック的にドル／円が急落すると買いがすぐに入って、数日で元のレートに戻るというような動きになっています。

日米の金融政策に大きな変化がない限り、このトレンドは続きそうです。

米国の株価は強い動きとなっていますが NY ダウは先週下げてきているため天井をつけた可能性も考えながら取引したいです。

米国証券取引委員会(SEC)が暗号資産のイーサリアム(ETH)の現物 ETF(上場投資信託)を承認するというニュースもあり、株と仮想通貨のマーケットは強気で推移しています。

今年に入り、株も仮想通貨も為替も変動の値幅がかなり大きくなっているので、レバレッジに気をつけて、リスクを取り過ぎないようにしていきたいです。

最近の米国の経済指標は悪いものもありますが FRB 関係者が利下げに対しては慎重な発言を繰り返していることもあり、利下げの時期はだんだん不透明になってきました。

年内に 1 回程度の利下げになるとの見方が増え、利下げが遠のいたことで、再びドル高になりやすい状況です。

米国の利下げは遠のいていますが他の国についても注意して見ていく必要があります。

インフレ率が再び上がりそうな状況になると利下げはかなり先になることも考えられます。

今のところ欧州だけがほぼ確実に 6 月に利下げに動きそうだという状況です。

カナダもそろそろ利下げを検討という状況ですが英国やオーストラリアは利下げを急いでいません。

また、英国は 7 月 4 日に総選挙を実施するというので、政治的な混乱にも注意がいります。

現状では、スナク首相率いる与党の支持率が低迷しているということで、ライバルの労働党が政権につく可能性があります。そうなると政策が全く違ってくることもあり得ます。

これは米国もですが、選挙で政権が変わってしまうと政策が今とは様変わりということもあるので、政治リスクも考えてトレードしていきたいです。

今週は南アフリカで政策金利の発表がありますが予想は据え置きではないかということです

今週月曜は、米国はメモリアル・デー(戦没者記念日)で祝日です。

● テクニカルで見た重要ポイントは？

<ドル／円>

今週の相場はどうなる？ 今週の相場はどうなる？

ドル/円は順調に上昇してきました。

5月は3日につけた151.8円あたりを底に円安が進みました。

158円あたりになると上値が重くなってきそうですが方向性は円安で変わりないため指標発表などで急落する場面があれば買っていきたいです。

先週は日本の長期金利が1%を超えてくるような動きになりましたが日米の金利差はまだ大きく、日本の長期金利がじわじわ上がっても円高に転換するリスクは少なそうです。

下値は156円を維持している間は堅調な動きが期待できそうです。

156円を割り込んでも155円あたりにもサポートがあり、下がれば買いが入りやすい状況です。

<気になるクロス円>

クロス円も5月初めの安値を底に順調に上昇しているペアが多く、基本的には上昇トレンドが続きます。

ただし、日米ともに長期金利が上昇してきていることで、これは株価にマイナスになるため株が急落するような動きが出た時は注意がいらします。

クロス円は株の下落と連動して下がる動きが出ることもあるので、NYダウなどの動きは見ておいた方がよさそうです。

日足や週足のトレンドが下落に転換するまでは、基本は買い狙いです。

下げている時は様子見で、下げ止まれば買うという戦略を取りたいです。

*クロス円とは円との通貨ペアの総称：〇〇/円というような通貨ペアのことです。

<今週のファンダメンタル？>

日本では植田・日銀総裁発言、5月東京都区部消費者物価指数、4月鉱工業生産などがあります。

米国では3月ケース・シラー米住宅価格指数、5月消費者信頼感指数、5月リッチモンド連銀製造業指数、米地区連銀経済報告(バージュブック)、1-3月期GDP(改定値)、前週分新規失業保険申請件数、4月住宅販売保留指数、4月個人消費支出(PCEデフレーター)、5月シカゴ購買部協会景気指数などが発表されます。

欧州ではユーロ圏とドイツで5月消費者物価指数、ドイツで5月IFO企業景況感指数、ユーロ圏で5月消費者信頼感指数などがあります。

ほかにはオーストラリアで消費者物価指数、南アフリカで政策金利、カナダで1-3月期GDPの発表などがあります。